

3. 次年度に向けて

【考察1】児童評価について

- 多くの項目で90%以上の肯定的な回答の評価を得ました。特に、「友達と仲良くできる」「先生の授業は、わかりやすい」「ドリル学習で計算や漢字の読み書きができるようになった」の項目の肯定的な意見の増加について、地域を生かした学習における外部講師の活用や普段の授業から行われているグループ活動、コンピュータを活用したドリル学習、放課後算数教室りんごルームなど、地域や保護者の皆様の協力をいただきながら、子供たちは意欲的に取り組むことができました。また、コンピュータ環境の整備や教材研究をしてきた先生方の努力の成果も評価されていることを嬉しく思います。
- 「学習でわからないことがあったとき、先生に質問しやすい」「困ったことがあったら、先生にいろいろ相談できる」「休み時間は、すすんで外に出て遊んでいる」の項目で肯定的な意見が他の項目に比べて低いです。子供たちは友達と仲良く過ごし、学習に意欲的に取り組むと感じている一方で、学習面や生活面において先生に質問や相談することができることを実感できないと感じている理由をよく分析をするとともに今後も更なる授業改善、教育相談の充実を図ってまいります。

【考察2】保護者評価について

- 昨年度と比較し、数値の微増微減はありますが、多くの項目で90%以上の肯定的な回答の評価をいただきました。中でも「子供は友達と仲良く生活をしている」「子供は学校行事を楽しみにしている」ことが高評価でした。日頃から保護者の皆様に本校の教育活動にご協力をいただけていることを実感しています。また、子供たちの学校生活の様子からも伺えています。来年度以降も引き続き努力します。
- 「学校は、開かれた学校を意識して子供たちの様子を発信している」の項目で、肯定的な意見が増加しました。感染症対策などの制限緩和や学校ホームページの積極的な配信によって、保護者の皆様に子供たちの学校での様子を伝える機会を多く設けられたと思います。今後も子供たちの活躍を目にする機会を増やしたいと思います。

保護者様宛文書のペーパーレスについては、必要に応じて手紙の配付を行うなど徐々に対応してまいります。また、マスクの着用について、厚生労働省より「令和5年3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします」とお知らせされています。本校では、市内の状況を見ながら家庭への発信と今後の方向性をお伝えしていきます。
- 学習面の「子供は、『授業は、楽しくわかりやすい』と言っている」「子供の学力は、授業を通して向上している」、生活面の「子供は、一人一人大切にされ、子供や保護者から認められる学校になっている」項目で厳しい評価をいただきました。児童評価で子供たちの学習意欲の高さは見られますが、わからないことを質問できなかつたり、生活面で相談をしにくかつたりすることが今後の課題でもあります。今まで以上に子供たちとの距離を教職員が縮めるために、まずは、教職員も挨拶を行うことが大切かと考えます。

子供たちや保護者の皆様から認められる学校になるためにしっかり分析し、改善、教職員の資質向上を目指してまいります。

